

10 図書・学術情報に関する事項

図書館は、各学部、各研究科及び研究所等における教育・学習・研究に必要な学術情報を広くかつ系統的に収集・整理及び保存管理を行い、これらを学生及び教職員の利用に供し、本学の教育・学習・研究活動を支援する中心的機関としての役割を担っている。

学術資料収集においては、各種データベースをはじめとする電子媒体普及の現状を踏まえ、従来の紙媒体に限らない多様な学術情報の収集に努めている。教育活動支援では、学術資料収集とあわせ、学術資料を学生が有効に活用できるように、授業とリンクした利用者教育の展開を行う。さらに学習支援として、グループ学習支援を中心とした諸策を実施する。研究活動支援では、場所と時間に関係なく利用可能な電子媒体の収集を主眼とし、紙媒体とのバランスの良い収集を目指す。

また、本学における研究成果や学術的価値の高い資料の社会的還元を図るため、学位論文をはじめとした研究成果物ならびに図書館が所蔵する古典籍・貴重資料のデジタル化を行い、広く学内外へ公開することや、展覧開催による一般市民への資料公開を行う。

1 図書・学術情報を活用した教育・学習支援

○学習支援機能の充実

学生の主体的な学びの確立のための支援策として、2012年度新規事業「図書館における学習支援機能の充実」で実施した諸策の結果を精査・検討し、さらなる充実を図る。またその際には図書委員をはじめとした教員と図書館員との協力体制をさらに深める。

○蔵書構成の充実

本学が設置する学部・学科、研究科の専門分野を視野に入れた蔵書構成の充実を図り、学生の学習用図書、基本図書及び教養と人格形成に必要な図書を広く収集する。また、各授業の学習を補助する参考文献の受入・配架を行う。

○利用者教育の充実

蔵書検索方法を中心とした新入生対象の図書館利用説明会の実施や、学習の実態に応じた情報検索講習会を実施する。クラス、ゼミ単位での図書館オリエンテーションの実施についても、これを積極的に展開し、図書館利用に対する学生の意識の向上を図る。

○利用者への情報提供

図書館利用ガイド『LIBRARY GUIDE』（発行：年1回）及び図書館報『来・ぶらり』（発行：年2回）を発行するとともに、ホームページを通じて、図書館の利用を促進する情報提供を行う。

2 図書・学術情報を活用した研究支援

○電子ジャーナルや学術データベースの収集

各教員の研究活動を支援するため、従来の図書資料に加え、電子ジャーナル、学術データベース等を積極的に導入する。そのため限られた予算の中でより有益に学術情報を導入・提供できるよう、電子媒体資料の選定、評価・見直し等を実施する。

○図書館所蔵資料のデジタル化・情報発信

貴重資料保存調査委員会の下で、古典籍デジタルアーカイブ研究センターと連携し、資料保存と情報提供を目的として、図書館が所蔵する資料（古典籍・貴重書等）のデジタル化の事業を積極的に推進する。

○学術機関リポジトリの運用

本学の学術研究成果を積極的に電子化し、広くインターネット上に公開する。また、新たに制定された「学術機関リポジトリ運用要項」に基づき、研究者や学内関係部署の協力を仰ぎ、学術機関リポジトリのさらなる情報発信機能の向上を図る。

○貴重コレクションの充実、整理

「長尾文庫」をはじめとした本学が所蔵する貴重コレクションの充実を継続的に図るとともに、貴重書データベース等の整備を行い、教育・研究へのさらなる利用を促進する。また大宮図書館での未整理資料の全体像把握のための調査を実施する。さらに故・中川正文氏が収集された寄贈資料を受け入れ、児童文学・児童文化関連蔵書の一層の充実を行う。

3 図書・学術情報利用環境の整備

○新深草図書館構想の具体化

建築工事が進行している新深草図書館について、フロア構成や設備・什器等の仕様を順次確定し、時代の要請に応じた新図書館構想の具体化を図る。また新1号館のCOMMONスペースの整備計画とも連動させ、総合的な学習支援環境の充実策を検討する。

○LibQUAL+®による図書館評価の実施

LibQUAL+®は、Webアンケートによる大学図書館評価の世界的な汎用ツールである。同評価の実施により、利用者（学生・教職員）の多様な意向を把握し、総合的な図書館サービスの向上を図るとともに、次期図書館計画の充実に寄与させることを期している。

○日曜開館等の実施

利用実態と利用者ニーズなどを勘案し、2012年度に引き続き、日曜開館等を実施する。また卒業論文作成時期等の開館時間の延長についても適宜実施する。

○適切な資料所蔵スペースの確保と資料保存環境の維持

新深草図書館の建築、国際文化学部の深草キャンパス移転、瀬田キャンパスにおける農学部設置に対応した適切な資料所蔵スペースの構築に努める。また継続して、3図書館の資料保存環境の整備にも配慮し、計画的な燻蒸やクーリーニング処理を実施する。

4 図書・学術資料の公開と施設の開放

○一般市民を対象とした図書館資料の公開

大学関係者をはじめ一般市民を対象として、大宮キャンパス本館展覧室における本学所蔵の貴重書を中心とした展覧を開催するとともに、深草図書館、瀬田図書館においても、所蔵コレクションの定期的なミニ展覧を開催する。

○高大連携に関する協定に伴う高校生等への図書館開放

高大連携に関する協定を締結している、滋賀県下の県立

工業高等学校と京都市立洛陽工業高等学校の生徒及び教員に対して図書館開放を行い、連携事業推進の支援を図る。また瀬田図書館では夏期休暇中に期間を定め、滋賀県下全域の高校生に対する図書館開放を実施する。

○図書館資料のインターネット上での公開

引き続き「古典籍のデジタルアーカイブ化」ならびに「学術機関リポジトリの構築」に努め、各コンテンツをインターネット上で公開し、研究成果や学術的価値の高い資料の社会的還元を行う。